

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社イズミ ゆめタウン福山

(2) 事業所の所在地

広島県福山市入船町3丁目1-60

(3) 業種

5611 百貨店, 総合スーパー

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、令和元年度を基準年度とし、令和2年度から令和6年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

基本方針

イズミの環境理念・環境方針に基づき、省資源・省エネ活動に取組、原単位で温室効果ガスを年間1%削減する。

推進体制

店舗責任者(店長)を各店舗責任者とし、省エネマニュアル通りの運用が出来ているか確認するとともに、施設員による設備の運転の見直し、週に1度の水光熱使用量グラフ(昨年比・予算比)の見える化及び最大電力の見える化も実施し従業員全員で削減に取り組んでいる。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	令和 元 年度	令和 元 年度
二酸化炭素	3,919	3,919

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	令和 元 年度	令和 元 年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	令和 元 年度	令和 元 年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (令和元年度)		削減目標		目標年度 (令和6年度)	
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)		
エネルギー起源CO2	3,919	(26.7)	-1,045	4,964		
非エネルギー起源CO2				0		
メタン				0		
一酸化二窒素				0		
その他 温室効果ガス				0		
温室効果ガス 実排出量総計	3,919	(26.7)	-1,045	4,964		
温室効果ガス みなし排出量		-		4,964		
目標設定の考え方	基準年数が9カ月のみの営業の為、年間排出量を算出し年1%削減として5%削減する。					

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

建物延床面積 × 営業時間 (m²*h)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (令和元年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和6年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2	3,919	180,898	0.02166	4.3	4,964	239,424	0.02073
非エネルギー起源CO2				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量				#VALUE!			
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-	0.009193	4.3	-	-	0.008798
目標設定の考え方	空調設備運転の見直しを行い年間1%のCO2削減を目指す						

※ 削減率(d) = $\{(c) - (g)\} / (c) \times 100$ 原単位(c) = (a)/(b) 原単位見込(g) = (e)/(f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	電気使用量の削減	電気使用量の1%削減	・冷暖房温度の適正管理(熱源設備運用改善)
2			
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み(環境価値の活用等)

	種 類	合 計 量
1	なし	
2		
3		

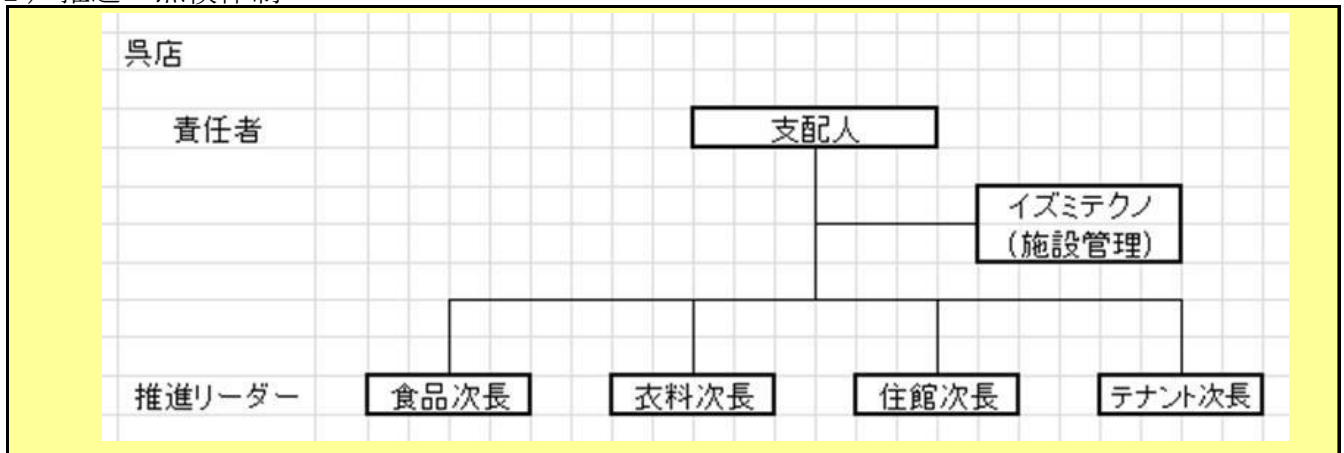
○ その他の取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	なし		
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

イズミテクノに各種エネルギー使用量を出し、責任者と無駄の確認を行い各推進リーダーへ各種指示を出し省エネを行うと共にバックルームにエネルギー使用量グラフを設置し見える化を行い社員の省エネ意識を浸透させる

(3) 計画書等の公表

事業所に備え付けて閲覧する。